

タイトル

名前

日付

# はじめに

- ▶ 項目 1
- ▶ 項目 2
  - ▶ 1 階層下の項目 1
  - ▶ 1 階層下の項目 2
- ▶ このページの最後の項目

## 次のスライド

- ▶ Fictitious play の説明 1
- ▶ Fictitious play の説明 2

$x_0(t)$  は

$$x_0(t+1) = x_0(t) + \frac{1}{t+2}(a_1(t) - x_0(t))$$

と再帰的に書くことができる。

- ▶ Fictitious play の説明 3
- ▶ “pause” をつけると overlay ができる。
- ▶ ファイルの冒頭の `documentclass` のオプションで `handout` を指定すると、overlay にならずいっぺんに表示される。

Web にのせるときや、印刷して配るときなどは `handout` を指定しておく。

## 次のスライド

- ▶ Fictitious play の説明 1
- ▶ Fictitious play の説明 2

$x_0(t)$  は

$$x_0(t+1) = x_0(t) + \frac{1}{t+2}(a_1(t) - x_0(t))$$

と再帰的に書くことができる.

- ▶ Fictitious play の説明 3
- ▶ “pause” をつけると overlay ができる.
- ▶ ファイルの冒頭の `documentclass` のオプションで `handout` を指定すると, `overlay` にならずにっぺんに表示される.

Web にのせるときや, 印刷して配るときなどは `handout` を指定しておく.

## 次のスライド

- ▶ Fictitious play の説明 1
- ▶ Fictitious play の説明 2

$x_0(t)$  は

$$x_0(t+1) = x_0(t) + \frac{1}{t+2}(a_1(t) - x_0(t))$$

と再帰的に書くことができる.

- ▶ Fictitious play の説明 3
- ▶ “pause” をつけると overlay ができる.
- ▶ ファイルの冒頭の `documentclass` のオプションで `handout` を指定すると, `overlay` にならずにっぺんに表示される.

Web にのせるときや, 印刷して配るときなどは `handout` を指定しておく.

## 次のスライド

- ▶ Fictitious play の説明 1
- ▶ Fictitious play の説明 2

$x_0(t)$  は

$$x_0(t+1) = x_0(t) + \frac{1}{t+2}(a_1(t) - x_0(t))$$

と再帰的に書くことができる.

- ▶ Fictitious play の説明 3
- ▶ “pause” をつけると overlay ができる.
- ▶ ファイルの冒頭の `documentclass` のオプションで `handout` を指定すると, `overlay` にならずいっぺんに表示される.

Web にのせるときや, 印刷して配るときなどは `handout` を指定しておく.

## コードの説明とか

- ▶ コードの表示の例

```
import numpy
from matplotlib import pyplot
```

```
x = numpy.arange(0, 10, 0.1)
y = numpy.cos(x)
pyplot.plot(x,y)
pyplot.show()
```

- ▶ `\begin{frame}` から `\end{frame}` までをコピー&ペーストしてスライドを増やしていく.

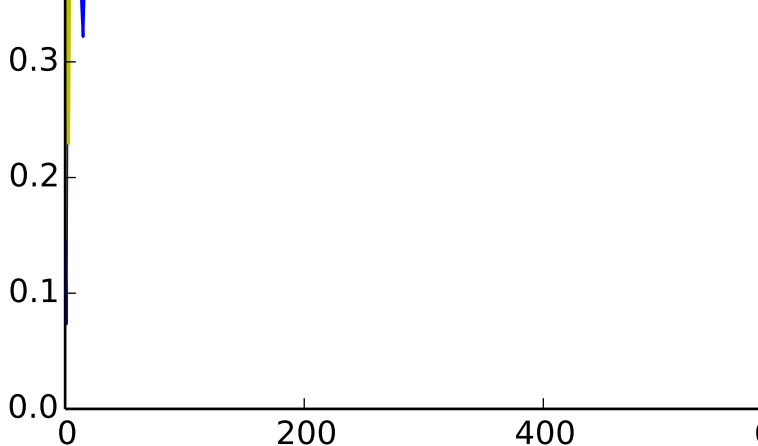


Figure : 図の表示



# まとめ

- ▶ まとめ
- ▶ よくわかっていない点とか
- ▶ 今後の課題とか